【】 花葉会賞受賞記念講演

出版業界のガーデニングブーム物語~花の本作りから探る~

山田幸子

思いもかけなかった花葉会賞を受賞し、ありがと うございました。

1990年「国際花と緑の博覧会」が開催されたころ仕事を始め25年ほどになり、その間に「花葉」の編集を20年、花の本を何冊か作りました。

私が出版業界に関係を持ったのは、花葉会編「フラワーランドスケーピング」(1992、講談社)でした。この仕事が終わったあと、出版社から「一緒に花の本を作ろう」とお誘いを受けました。

当時の園芸書は、中高年の男性向きのハウツウもので、文章の多いものでした。女性が家庭で花を育て飾って楽しむ本、見て楽しいきれいな本が欲しいと、庭の中の花の使い方を提案した「花のくらし」(全4巻、1996、講談社)を企画し、取材・執筆・編集協力をさせていただき、豪華箱入りの本ができました。寄せ植えや花壇は、カラーコーディネイトが大切だと花色別の図鑑のページをつけました。2003年には花色別のページを合本した「花色図鑑」が出版されました。



この本を作っている間にガーデニングブームが到来し、1997年にガーデニングが流行語大賞の一つにも選ばれました。園芸業界のガーデニングブームは、1993~2002年で、2001年がピークだったように思います。これがどのように出版業界に影響を与えたかを見てゆきたいと思います。

「園芸」は、中高年の男性中心でしたが、「ガーデニング」には、40~50歳代の主婦や子育て中の若い女性も参入しました。女性向けの園芸書が必要となり、

ガーデニングブームが出版業界にも来ました。1993年 から栽培の基本的なことを押さえた本が次々と出版さ れました。

女性の立場から、くらしの中の花づくりで潤いのあるライフスタイルをと提案し、企画・イメージ作りなどいろいろ参加しました。「小さなキッチンガーデン」(2000年、編集協力)、「野の花を楽しむ本」(2000年、執筆)、「ECO GREEN」(2000年、編集協力)、「花の庭づくり 自由自在」(2001年、編集協力)、「URBAN GARDENING」(2002年、編集協力)。

女性向けに読ませるタイプの園芸の本を創りたいと思い、「花づくり 庭しごと〜Gardening Calendar」 (2001年)を執筆、読んで楽しい花の本を目指しエッセイ風に書いた「わたし流〜83の花づくり」 (2003年)を作りました。今まで関係した本の中で再版できるのは新しい植物が出てきたので「花色図鑑」 (2003年)です。





2004年に「花の歳時記」の植物の解説を担当し、季節の数え方がもうひとつあると実感しました。

2009年に主婦の友社から「二十四節気でわかる園芸作業」を出版し、季節との付き合い方を伝えました。毎日新聞から「初心者向けにただ花を作るのではなく、季節を楽しむ、暮らしを楽しむ」内容の連載のオファーがあり、2005年4月~2012年3月まで連載しました。これはガーデニングブームの余韻かなと思いました。

ブーム後(2005年以降)のガーデニングの本は、無 農薬、ナチュラルガーデン、育てて食べるなどの安全・ 安心の傾向が見られます。

2009~2012年は、野菜・ハーブ関連の本が増えました。2007~2011年は野菜苗の販売量が増えた時期です。2008~2011年は、出版業界の菜園ブームです。

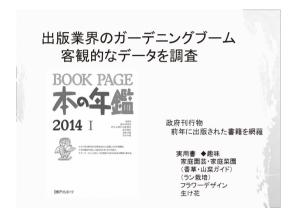
2011年の大震災後は、節電対策で緑のカーテンの本を出版業界でも一生懸命に作りました。

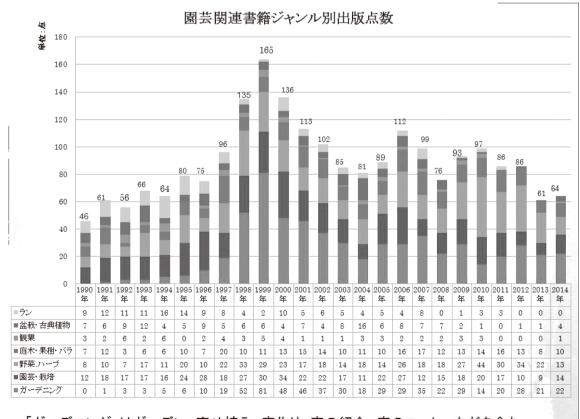
2005年ごろから新しい本の企画が通りにくくなり、 2009~2010年になるともっとひどい状況で、「費用かけない、時間かけない、写真は財産、有効活用」をと 言われました。不況で出版会社がかなり苦労している のがわかります。作っているほうがつまらないのです から、読者はもっとつまらないだろうなと思います。

園芸を始めてみようかなという人は常にいます。 そんな方々をフォローする良い本が出版されることを 期待しております。ご清聴ありがとうございました。

(文責:編集部)

図表は講演者データより





「ガーデニング」はガーデン、寄せ植え、庭作り、庭の紹介、庭のエッセーなどを含む